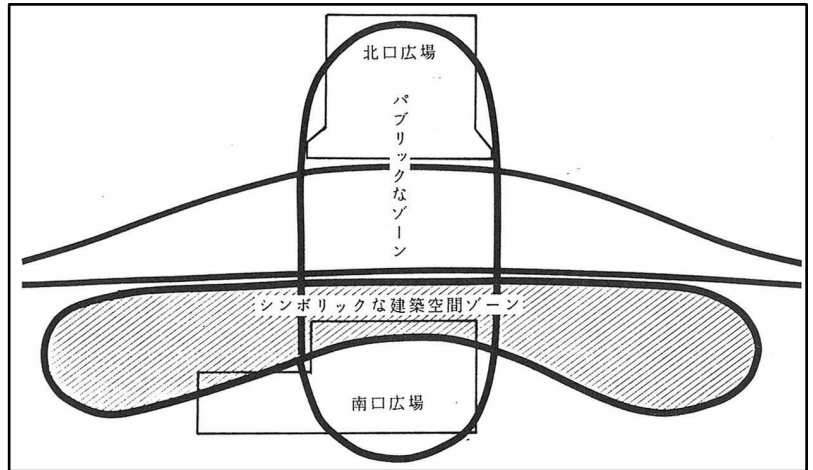


◆建築空間の空間構成の考え方

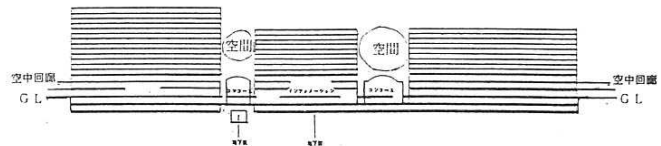
・平面：東西両連絡通路並びに南北駅前広場を結ぶパブリックゾーンと、高架南側で東西方向に連なるシンボリックでにぎわいのある建築空間ゾーンのクロスするゾーンとしてとらえる。

・立体：低層階は、ゆとりある敷地利用でかつにぎわいのある連続性の高い空間の形成を考慮する。

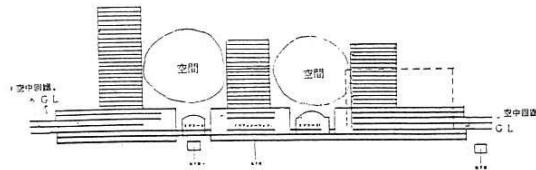
高層階は、閉鎖的な壁面の連続をさけ、札幌の都市エネルギーを象徴するシンボル性の高い建築空間の形成を考慮する。



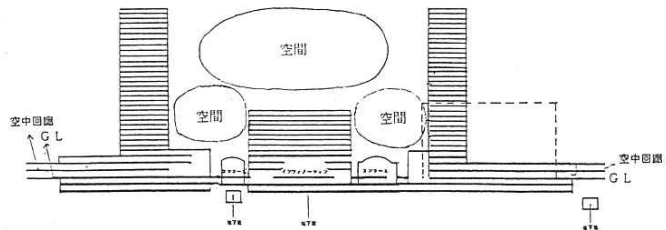
① 壁状の空間構成－閉鎖性が高い



② 塔状の空間構成－解放感とランドマークが生まれる



③ 超高層の空間構成－シンボル性と南北の視認性が高まる



1 札幌駅交流拠点の位置づけ・役割

I-1 世界都市さっぽろへ向けた基本認識

【世界から投資や人材を呼び込むことができる成熟都市へ】

「成長」から「成熟」へ、札幌の都市づくりは今大きな転換期を迎えている。

これまでの人口の増加や産業の発展など都市の成長に合わせた市街地の拡大から、少子高齢化、人口の伸び悩み、人々の価値観やライフスタイルの多様化といった成熟社会を迎え、持続可能なコンパクト・シティへの再構築が求められている。

このような中、多くの市民に愛され、世界に誇れる一アジア・世界レベルでの都市間競争の中で確固たる地位を確立できる一札幌であり続けるためには、市民生活の質向上を目指して、札幌がひととき優れたまちづくりを展開し、まちづくり自体によって世界から投資や人材を呼び込むことができる都市へと成熟していくことが必要である。

もとより、札幌は、東アジアと北米を結ぶ線上に位置し、日本海側と太平洋側に3港湾（小樽・石狩・苫小牧）、さらには2空港（新千歳・丘珠）が立地または隣接している地理的優位性を有している。

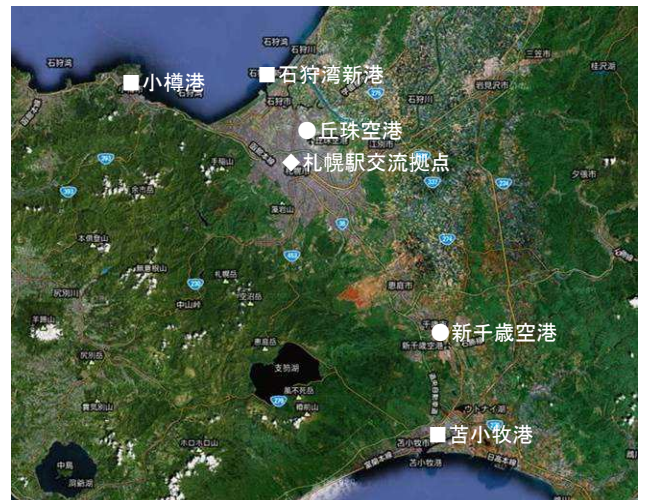
今後、世界及び東アジア各地域の成長と活力を取り込みながら札幌が成熟していくためには、人・モノ・情報など様々な面での交流促進が重要であり、そのためにはこれら2空港3港湾の機能強化に加え、札幌都心と2空港3港湾をスムーズに結ぶ広域アクセスの強化が必要である。

さらに、全国各地を訪れる外国人観光客や国内外のビジネスパーソンなどとの交流促進を図るためには、北海道新幹線の札幌延伸が不可欠である。

これら総合的な取組によって、国内外に高い知名度を誇る北海道・札幌と国内外主要都市との結びつきが強化されることで、国が進めるビジット・ジャパンに貢献するとともに、都市としての国際競争力向上が期待される。



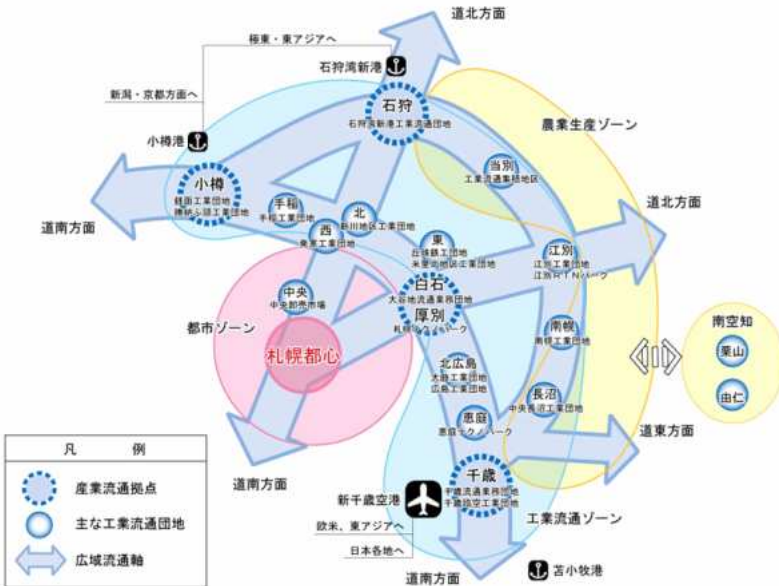
資料：第4回道央都市圏PT調査



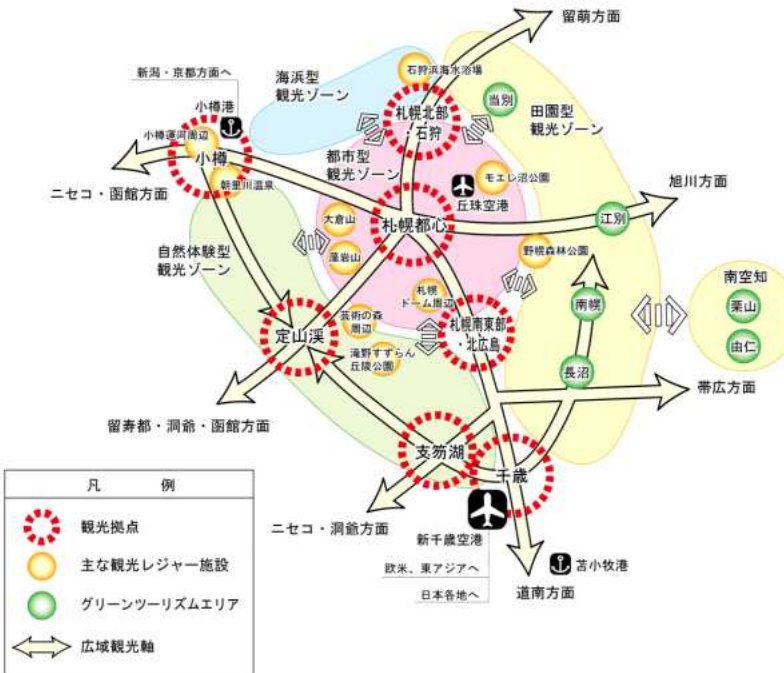
【参考：道央都市圏における交流・連携概念図】

国際競争力の強化、都市の経済活動の維持・向上に向け、札幌都心部を核として2空港3港湾が連携した交流・連携機能の強化が重要

【産業・流通】

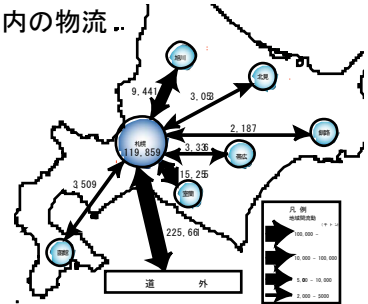


【観光】



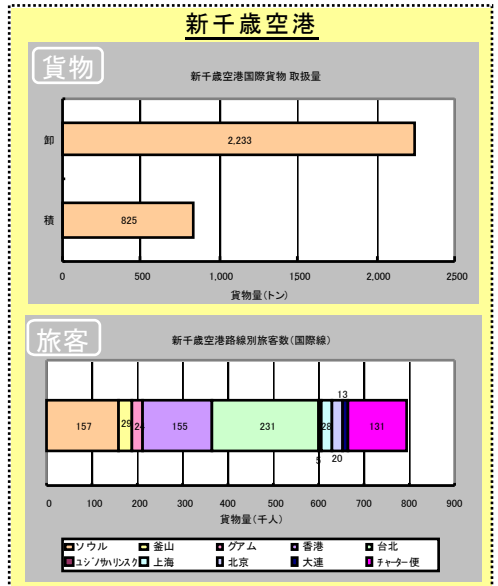
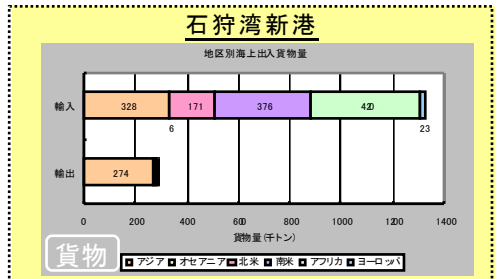
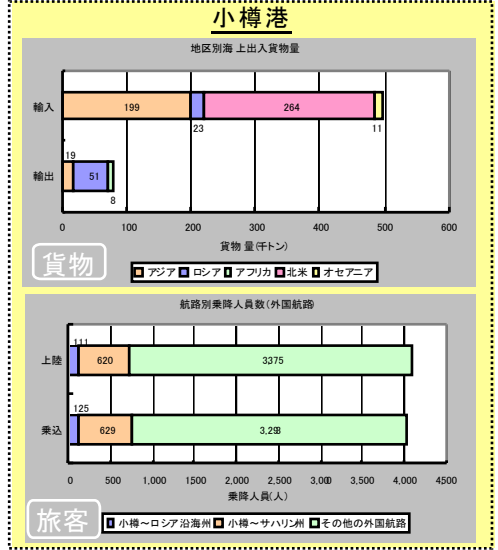
資料：第4回道央都市圏PT調査

■道内の物流



資料：貨物地域流動調査（平成17年）

■空港・港湾における国際化



I - 2 札幌駅交流拠点の役割・拠点形成の方向性

札幌駅交流拠点は、外部からの来訪者にとって最初に足を踏み入れる玄関口であり、札幌という都市の印象が大きく決定づけられる場所である。

札幌に住んでいる市民にとっても都心部はまちの顔であり、特に札幌駅交流拠点においては、**道都さっぽろの“玄関口”にふさわしい顔づくりとともに、北海道・札幌をアピールする場の形成**が求められる。

したがって、札幌駅交流拠点では、「さっぽろ都心まちづくり戦略」における『人』『創造』『環境』の3つの視点によるまちづくりの具現化を図ることで、札幌の魅力を発信し、市民生活を豊かにする都市空間を形成していくことが必要である。

さらに、道内最大の交通結節点であり、今後、北海道新幹線や路面電車など更なる公共交通の集積が想定されることを踏まえると、**人にやさしいシームレスな交通環境の形成を推進するとともに、市内外、国内外とのヒト・モノ・情報等のあらゆる交流を創造し、北海道・札幌の発展・活性化を牽引していくことがその大きな役割と**考えられる。

このことから、札幌駅交流拠点は、「さっぽろ都心まちづくり戦略」における『人』『創造』『環境』に加え、道内最大の『交通』結節点としての機能強化の4つの視点によるまちづくりを推進していくことで、札幌の魅力を象徴的に発信する場を形成し、国内外の観光客・ビジネスパーソン等を惹きつけ、**集客交流都市としての国際競争力を高めていくための拠点としていくことが重要**である。

(1) 『人』：魅力的で質の高い人中心の空間の形成

都市の魅力と活力を高めるためには、人々の活動やにぎわい、交流、憩いの風景が日常的に見える、魅力的なパブリックライフ^{※1}が展開されていることが重要である。

札幌の“玄関口”である札幌駅交流拠点^{※2}は、都心におけるパブリックライフの起点であることから、駅前広場を中心として、都心に住む、あるいは訪れる人々の多様な価値観に込め得る“魅力的で質の高い人中心の空間の形成”を図っていくことで、大通・すすきの方面や都心まちづくりの重点地区である「創成川以東地区」など、都心全体にパブリックライフを展開させ、都心の生活に厚みを増すための取組を進める必要がある。

また、世界と交流する世界都市さっぽろとして、人々の集散や交流、情報発信、円滑かつ快適な交通結節点、文化や産業交流など、人々の活動を支える機能が適正に配置された中で、札幌駅を降り立った瞬間から、「世界都市さっぽろ」を実感できる魅力的な都市の風景^{※2}の形成が求められる。

- ※1：パブリックライフとは、働く、学ぶ、遊ぶ、住む、といった基本的な都市の生活を支える人と人、人と都市とのコミュニケーション活動であり、イベント交流や文化活動、ビジネス交流などを通じて育まれる人々の連帯感や都市を楽しみ、誇りに思う姿が、魅力的な都心の風景を創出する。ここでいうコミュニケーション活動とは、都市のもつ空間や歴史・文化、人々等と出会い、触れ合うことによって、都市のよさ、素晴らしさを体感する、あるいは自らが都市活動に参画することによって、新たな都市の歴史・文化等の創造することをいう。これらの行為により、結果として人々の都市に対する愛着や誇りが醸成される。
- ※2：都市の風景とは、都市を形成する建物や街路・広場および植栽といった都市景観要素に加え、そこでの都市生活・都市活動を含めた総体をいう。

(2) 『創造』：新たな産業や文化を創造する交流の場の形成

札幌市では、平成18年3月に「創造都市さっぽろ (sapporo ideas city)」宣言を行い、市民の創造性を活かした、新しいまちづくりの方向性を打ち出している。

近年、グローバル化の流れの中で、世界中の都市間での文化や観光、人材や経済の交流活性化が求められており、札幌市においても、国内外のあらゆる交流を活性化させ、そこから生み出される創造的な力によって、都市課題の解決に取り組むことが重要になっている。

札幌駅交流拠点では、この「創造都市さっぽろ」の推進に向け、道内最大の交通結節機能という特性を生かし、市内外、国内外とのヒト・モノ・情報等のあらゆる交流を創出することにより、人々の創造性を誘発し、新しい産業や文化を生み出すための起点となる場を形成することが求められる。

このことにより、様々な交流から誘発される創造性を原動力としたまちづくりの活性化が期待される。